

令和2年度

「運営に関する計画・自己評価」
(最終評価)

大阪市立玉造幼稚園
令和2年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本園は、広い敷地、築山や池、芝生があり、起伏に富んでいる園庭、多種類の木々がある自然など環境に恵まれている。その中で、子どもたちは思う存分体を動かして遊び、園生活を楽しんでいる。しかし、広い場での多岐にわたる遊びに対する安全についての意識が不十分なところがある。そこで、全教職員が共通理解したり、子どもたちと話し合ったりしながら遊びのルールづくりを進めるなど、安全な習慣への意識へとつなげていきたいと考えた。
- 園生活に入るまでの子どもたちは、個人差はあるが、限られた人とのかかわりの中で育ってきている。本園でも、園生活が始まり、今までにかかわったことのない立場の人に出会うと、どうしてよいかわからず戸惑っている姿が見られる。そこで、幼稚園生活の中で、様々な人とかかわる経験を積み重ねていくことで、相手のことを思いやってかかわれる子どもに育てていきたいと考えた。
- 本園の子どもたちは、家庭で大切に育てられている。ただ、大人が意図を汲み取りすぎる側面もあり、自ら表現しなくても伝わるため、いざという場面ではっきりと思いを出しにくい姿がある。日々の様々な活動を通して、多様な体験を積み重ねることで、のびのびと自分の思いや考えを表現する子どもに育ててほしいと願う。また、いろいろな遊びに興味をもてるような環境の工夫も進めていきたい。
- 園生活に入るまでの子どもたちは、保護者の影響を受けながら身の回りの清潔に関する事柄を身に着けている。しかし、家庭での経験には個人差もあり、園生活を送るに当たって家庭とは違った場面に戸惑っている子どもも見られる。園では、子どもが必要を感じたり友達と一緒にやってみようとする意欲を持たせたりしながら、幼児期に必要な基本的な生活習慣を身につけるよう、家庭と連携しながら指導に取り組みたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和2年度の保護者向けのアンケート調査で、「安全な生活に必要な習慣が身についていますか」の項目について、肯定的回答率の割合を80%以上にする。
- 令和2年度保護者向けのアンケート調査で、「幼稚園は、相手のことを思いやって、かかわろうとする子どもに育てようとしていますか」の項目について、肯定的回答率の割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和2年度の保護者向けのアンケート調査で、「さまざまな活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいますか」の項目について、肯定的回答率の割合を85%以上にする。
- 令和2年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を身につくように努めている」の項目について、肯定的回答率の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○令和2年度の保護者向けのアンケート調査で、「安全な生活に必要な習慣が身についていますか」の項目について、肯定的回答率の割合を80%以上にする。

○令和2年度保護者向けのアンケート調査で、「幼稚園は、相手のことを思いやって、かかわろうとする子どもに育てようとしていますか」の項目について、肯定的回答率の割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和2年度の保護者向けのアンケート調査で、「さまざまな活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでますか」の項目について、肯定的回答率の割合を85%以上にする。

○令和2年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を身につくように努めている」の項目について、肯定的回答率の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

・本年度の幼稚園運営でも、子どもの実態把握をもとに、教職員で話し合いの積み重ねや共通理解を大切にして、各目標に向けての取り組みを綿密に進めていくことができた。

・「子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現」では、今年度は特に新型コロナウイルス感染症予防に向けた様々な対策を行い、安全に過ごせるよう工夫し、またその様子を保護者にも知らせた。コロナ禍であっても、クラスや他学年の友達ともかかわる機会をつくり、心と心が触れ合えるような活動内容を工夫した。様々な取り組みにより、保護者アンケートでは肯定的な回答率が目標を大きく上回り、成果が得られた。来年度も状況をしっかり把握し、子どもたちが安心・安全に園生活を送れるようにしていきたい。

・「心豊かに力強く生き抜き未来を切り開くための学力・体力の向上」では、子どもたちが自然に興味をもち、生活や遊びに取り入れたくなるような環境構成や教材研究を行った。これらに取り組むことで、子どもたちが不思議に思ったり、発見したりしたことなどを様々な方法で表現する姿につながった。園内研修では、全員が互いの保育を見て意見を出し合うことで、教職員の資質向上につながった。また、手洗い・うがいに関する保健指導を計画的に行うことで、子どもたちの意識が高まり、今年度は欠席児も例年より減少した。保護者にも定期的に資料を配布したり、長期休業中には手洗いカレンダーを発行することで、家庭でも意識できるようになっていった。保護者アンケートでは、肯定的な回答率が目標を大きく上回り、成果が得られた。

大阪市立玉造幼稚園 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>○令和2年度の保護者向けのアンケート調査で、「安全な生活に必要な習慣が身についていますか」の項目について、肯定的回答率の割合を80%以上にする。</p> <p>○令和2年度保護者向けのアンケート調査で、「幼稚園は、相手のことを思いやって、かかわろうとする子どもに育てようとしていますか」の項目について、肯定的回答率の割合を85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>安全な生活に必要な習慣が身につくような指導を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 年間計画を作成し、学期に1回以上実施する。</p>	A
<p>取組内容②【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>避難訓練を実施し、安全な避難の方法の仕方を身につけるようにする。</p> <hr/> <p>指標 年間計画を作成し、計画通りに実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>掲示物や配布物を活用し、保護者への啓発を図る。</p> <hr/> <p>指標 学期末に安全だよりを配布する。</p>	B
<p>取組内容④【施策3 道徳心・社会性の育成】</p> <p>園内でいろいろな人とかかわり、親しみをもって相手を思いやる気持ちを育てる。</p> <hr/> <p>指標 実態に合わせて、学期に1回以上指導する。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①自分の身の回りのものを管理することが、安全な生活に必要な習慣を身につけることにつながると考え、年齢に合わせた年間計画を立案した。年間計画に基づいて定期的にクラスで整理整頓を行い、自分の持ち物を管理できるようにしてきた。とくに今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、個人で使う持ち物が増えたため、自分の持ち物を管理したり、進んで整理整頓を行ったりできるよう丁寧に指導を行った。課題であった自身でつくったものも1つの作品として大事に扱えるようにクラスで考え、各年齢・子どもの実態に合わせて改善した。運動会では年齢別に分散で行い、子どもたちが互いに距離をとれるような演技を考えたり、保護者同士も間隔を空けられるように足マークを設置したりした。作品展では換気ができるように作品の展示方法や密を避けるための工夫を行った。生活発表会では子どもたちがのびのびと安全に劇遊びができるように正しいマスクの着用方法につい</p>	

て指導をしたり、距離をとれるように立ち位置に目印をつけたりと新型コロナウイルス感染症予防に努めた。

②今年度は、休園・分散登園などの事情により、年間計画通りの実施は困難であった。

予定を延期し、6月に火災、7月には地震の避難訓練を実施した。年齢発達に合わせ、3歳児は初めての避難訓練は見学という形をとり、安心して訓練に参加できるようにした。9月の地震の避難訓練では、小学校への避難は中止となったが、視覚的教材を使用し、どこにどのように避難するのが良いのかを子どもたちが自分で考えられる機会とした。また、11月は不審者対応の避難訓練を実施し、火災、地震以外でも避難することがある事を知らせた。10月、1月、2月は地震、火災それぞれの抜き打ちの避難訓練を実施を行い、突然の避難ベルにもあわてることなく避難できるようになった。年間計画通りではない部分もあるが、限られた回数の中で、一つ一つの機会を大切に、安全意識が身に付くように指導できている。

③今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、子どもたちの生活様式が大きく変わったことから、幼稚園での子どもたちの様子を保護者に知ってもらうために、学期末に生活だよりを配布した。1学期は、整理整頓している姿や、自分のことは自分ですということに加え、ソーシャルディスタンスを意識できるよう、視覚教材などを使いながら過ごしていることを知らせた。2学期は、距離を保ちながらも、積極的に挨拶をし、他学年同士でも言葉で伝え合う機会をもって繋がりを感じていること、新しい生活様式の中でも前向きに順応していく力を身に付けていることについても知らせることができた。また、学期末には子どもの活動している写真に、教師の教育的意図をもった働きかけを記した掲示物を作り、教育委員会のマニュアルに沿いながら、幼稚園生活を送っている様子について知らせたり、保育の中で子どものつぶやきやエピソードを基にそこから読み取れる子どもの育ちや学びについて記載した手紙を配布したりするなど様々な方法で保護者に知らせることができた。

①②③の取組により、年度末の保護者向けアンケート調査において「安全な生活に必要な習慣が身についていますか」の項目について、肯定的回答率の割合が97.2%となり、目標を達成することができた。

④今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、子ども同士が接触してかかわることが困難であった。6月からの通常登園の中で、教育委員会のマニュアルに沿いながら、まずはクラスの子どもがかかわりをもてるよう接触せずにできる遊びを行った。2学期の運動会では、互いの演技や競技を見ることで、他クラスの子どもに興味をもつ姿が見られた。年長児がリレーで走っていると、年中児も一緒に交じって楽しむなど、学年の垣根を越えて一緒に遊ぶことができた。10月の玉造公園や大阪城公園での園外保育では、年長児と年少児が手袋をつけて手をつなぎ、一緒に行くことで、年長児が年少児に対して、相手の立場に立って、思いやりをもって且つ安全に行動する姿が見られた。また、年少児は年長児に憧れをもち、名前を呼ぶ姿が見られた。3学期の生活発表会では、換気を十分に行った上で人数を制限しながら互いの劇遊びや楽器遊びを見合ったことで、他クラスの友達への関心が高まり、発表会後には学年を越えてどのクラスもダンスを教え合っていた。直接のふれあいは少なくとも、年間の取組の中で心と心のふれあいを行うことで、思いやる気持ちが育まれた。この取組により、年度末の保護者向けアンケート調査において「幼稚園は、相手のことを思いやって、かかわろうとする子どもに育てようとしていますか」の項目について、肯定的回答率の割合が98.1%となり、目標を達成することができた。

次年度への改善点

- ①子どもたちの実態に合わせ、教職員間で連携しながら安全に過ごすための指導や環境の工夫をしていきたい。また新型コロナウイルス感染症の状況に合わせ、教職員間で話し合い、予防に努め、日々の生活を通して子どもたちが安全に過ごすための指導を行う。
- ②次年度も引き続き、今年度の実態を振り返って、計画を立てて実施する。
- ③次年度も計画を立てて配付物や掲示物を作成し、子どもの生活について知らせ、啓発していく。
- ④今後も新型コロナウイルス感染症対策マニュアルに沿いながら、できる範囲でいろいろな人とかかわれるように実施する。

大阪市立玉造幼稚園 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>○令和2年度の保護者向けのアンケート調査で、「さまざまな活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいますか」の項目について、肯定的回答率の割合を85%以上にする。</p> <p>○令和2年度の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を身につくように努めている」の項目について、肯定的回答率の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>園内の自然を生かして、様々な経験ができるような環境構成や教材研究を行う。</p> <p>指標 年4回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【施策7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習への支援】</p> <p>自然を生かして、いろいろな遊びを楽しんでいる姿をさまざまな方法で保護者に知らせる。</p> <p>指標 年3回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>就学前教育カリキュラムを活用して、教師間で話し合ったり、保育研究を行ったりして、指導力の向上に取り組む。</p> <p>指標 月の1回程度協議の場を設ける。園内研究保育を年6回実施する。</p>	A
<p>取組内容④【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>子どもへの保健指導を工夫する。</p> <p>指標 年2回以上手洗い・うがいに関する保健指導を行う。</p>	A
<p>取組内容⑤【施策6 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>掲示物や配布物を活用し、保護者への啓発を図る。</p> <p>指標 手洗い・うがいに関するほけんだよりを年2回以上発行する。</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>①年間を通して子どもが自然環境や事象に興味をもてるよう、様々な活動を保育に取り入れた。花や実のなる木の変化、落ち葉や氷など季節特有の自然に触れて、不思議に思ったり、発見したり、好奇心をくすぐったりするような教材研究をし、遊びを展開していった。このような遊びから言葉での伝え合いや絵画、技法遊びなど様々な表現活動も楽しんだ。また学年・個人での植物の栽培活動を通して大切に育てる気持ちを持ち、生長とともに季節や気温などと関連して捉える姿も見られた。</p>	

②学期末には子どもの遊びの様子やそこでの学びがわかるよう、写真と教育的意図をもった働きかけや教師の願いを書いたものを掲示した。また子どもが発見したことを自分たちで製作して図面に表したものと、その遊びの過程を説明したものを掲示して知らせた。子どもの製作物を実際に見る機会をつくることで、保護者にどのような活動をしているのかを分かりやすく伝えることができた。

①②の取組により、年度末の保護者向けアンケートにおいて「さまざまな活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいますか」の項目について、肯定的回答率の割合が95.4%となり、目標を達成することができた。

③水曜日に一クラスのみ午後保育とし、全教員で保育を見合う園内研究保育を行った。2学期には2回、3学期には4回、計6回実施でき、目標としている指標を達成できた。園内研究保育をすることで、いつも以上に保育について考える機会になり、日頃の保育を見直したり教材研究を行ったりと教員の保育力の向上につながった。また同じ場面を全教職員が見ているので子どもたちの様子を多面的に見ることができた。他にも研究部の実践記録を検討し、5クラス分の記録を読み取り、意見を交わすことで、担任が気付けなかった子どもたちの思いにも気付くことができ、幼児理解につながった。

④⑤学期に1回、手洗いうがいにに関する指導を行った。1学期は手洗い・うがいをするタイミングや、手洗いの歌を用いた指導を行った。さらに理解を深めるために手洗いうがいの指導を分けて行った。2学期は、手洗いに重点を置き、指導を行った。年中・年長児に手洗いが身に付いているか確認するために、外遊びの後、水で濡らしたカット綿で手を拭く実験を行った。自分がどのくらい手洗いができているか可視化することができ、子どもたちは、真剣な表情で取り組んでいた。3学期は、うがいに重点を置き、指導を行った。しっかりと上を向いてうがいをすると（ホースに息を吹き込むと）、菌に見立てたビーズがでてくる仕組みになっている「うがい人形」を使用した。上を向かずにするときと、上を向いてする2つの場面を見せた。上を向いてしたときに、たくさん菌（ビーズ）が出てくる様子を見て、子どもたちは驚いた様子であった。視覚的な教材や子どもたちが体験できる実験を取り入れたことにより、子どもたちの理解が深まり、指導後は、きれいになった手を教師に見せたり、しっかりと上を向きうがいをしたりする姿が見られた。

保健指導の様子は、ほけんだよりに写真と共に掲載し、保護者啓発を行った。また、夏休みと冬休みに手洗いカレンダーを発行し、集計結果をほけんだよりに掲載した。

④⑤の項目について、年度末の保護者向けアンケート調査での、「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を身に付くように努めている」の項目において、肯定的回答率の割合は100%となり目標を達成することができた。

次年度への改善点

①季節ごとの自然環境を整えて、子どもの関心が深まるようにしたい。また自然事象についてもタイミングを逃さずに保育に取り入れていくことを大切に、より豊かな経験をして学びにつながるようにしていく。

②今後も継続的に掲示物を作成し、子どもの姿や学びを分かりやすく伝えられるようにしていきたい。

③次年度は1学期から計画的に園内研究保育ができるようにする。

④⑤次年度も、年間計画に位置付けて、繰り返し指導を行っていく。また、指導内容を工夫するために、教材の研究を行う。

令和2年度 学校関係者評価報告書

大阪市立玉造幼稚園 学校協議会

1 総括についての評価

今年度は新型コロナウイルス感染症対策に追われる中で、できる範囲で工夫をしてよく取り組んでいた。本年度の自己評価通りに、教育活動に取り組んでいることが分かる。アンケート結果は、全体的にどの年度目標についても幼稚園の取組に対しての評価は高く、妥当であると評価する。今年度の取組と成果を振り返り、来年度に生かしてほしい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和2年度の保護者向けアンケート調査で「安全な生活に必要な習慣が身についているか」の項目について肯定的回答率の割合を80%以上にする。
- 令和2年度の保護者向けのアンケート調査で、「幼稚園は、相手のことを思いやって、かかわろうとする子どもに育てようとしていますか」の項目について、肯定的回答率の割合を80%以上にする。
- 達成状況は妥当である。保護者アンケートではどちらの項目でも肯定的回答率が高く、内容的にも達成できている。
- コロナ禍の中で、子どもたちが安全に活動できるように工夫をして取り組んでいた。それが、子どもたちが新しい生活様式に対応できるような習慣も身につけていることが窺えた。
- 接触する活動が難しい中、できないからやめる、迷ったらやめるではなく、できることを考えて、園全体で連携し、各クラスの子どもたちがお互いを気にして関わられるように保育が工夫されている。子どもたちの心が育っていることも窺えた。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和2年度の保護者向けのアンケート調査で、「さまざまな活動を通して、自分の思いや考えを表現することを楽しんでいますか」の項目について、肯定的回答率の割合を85%以上にする。
- 令和2年度の保護者向けアンケート調査で、「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を身につくように努めている」の項目について、肯定的回答率の割合を、80%以上にする。
- 達成状況は妥当である。保護者アンケートではどちらの項目でも肯定的回答を得ることができた。
- 広い園庭、自然を生かして保育をすることは、この幼稚園ならではの取組である。野菜や果実の生長の過程での発見だけでなく、自然現象の不思議さにも気付いたりしながら、それを遊びに取り入れ、様々な方法で表現していることがよい経験となっている。幼稚園での経験が家庭でもつながっていることが分かる。
- 今年度は特に手洗い、うがいの指導を工夫されていた。実験的なものは子どもの心をくすぐり、うがい、手洗いの重要性に気付くことにつながり、生活習慣として身につけている。

3 今後の学校運営についての意見

- このコロナ禍の中でも、日々の子どもの様子や保護者アンケート結果から、幼稚園での教育がしっかりと実践されていることが分かった。子どもたちが安全に活動できるように工夫されている。
今後も、新型コロナウイルス感染症対策の中で教育活動となるだろうが、今年度の取組を生かして、子どもたちのために教育の充実に努めてほしい。
- 幼稚園と家庭と地域で子どもを育てていくことが大切である。今年度、地域としても行事も中止をせざるをえなかったが、今までのつながりが途切れることのないよう、今後もこの地域の幼稚園として、教育を大切にしながら保育の充実に努めていってほしい。